



War Cry

3月号

福音版
2026
March
No.2902

二〇二六年 三月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

GOOD NEWS ときのかえ

あなたと友達に なりたいイエス

朝澤 義人



「友達になってくれて、ありがとう。」

先日、ご挨拶がてらお訪ねした方が言ってくれました。言葉です。私はご挨拶がてらと思っていました。その方にとっては、わざわざ会いに来てくれるということに格別だったようです。

今の時代、デジタル化が進み、オンラインで会議をしたり、挨拶することが当たり前になりました。「初めまして」がオンライン上でなされるのは珍しくないことです。だからこそ、わざわざ会いに行く、来ていただくことは、私たちの心を動かす姿勢なんだと教えられました。

聖書の神様は、それ以上に、私たちの心に、いつも、どんな時でも会いに来て、友となろうとしてください。救い主イエス様自ら私たちにこう言っておられます。「わたしはあなたを友と呼ぶ。」(ヨハネによる福音書15章15節)

また、旧約聖書のイザヤ書には「わたしはあらかじめ告げ、そして救いを与え、あなたたちに、ほかに神はないことを知らせた」(イザヤ書43章12節)と書いてあります。友達だからこそ、あなたに告げたいことがある、そして救いを与えると言っ

ているのです。

・あなたに告げたいこと

聖書は、はっきりとあなたに言っています。「私はあなたを愛している」と。約六百回以上も、聖書を通して言っています。この「愛」はアガペーの愛(神様の人間に対する無条件の愛)です。あなたが立派だから、業績を上げたから、功績を残したから愛するものではありません。「わたしの目にあなたは価値高く」(イザヤ書43章4節)と言われているほど、神様はあなたの存在そのものを愛しているのです。

しかし聖書はこうも言っています。「あなたは罪人だ」と。罪と聞くと、犯罪の罪を思い浮かべますが、聖書は「正しい者はいない。一人もない」(ローマの信徒への手紙3章10節)と言っています。罪とは、神様を認めず、自分勝手に生きること、あなたを愛してやまない神様の悲しむことを、言ったり、したり、考えたりすることです。そう考えるなら、罪のない人は一人もいないのです。

・あなたに救いを与える
イエス様は私たちのすべての罪のために、身代わりとなって十字架にかかり、死んでくださいました。そしてそのことを信じる人に救いの道を開いてくださったのです。

今、若者に人気のラップで、敬虔なクリスチャンの KiBaba さんは、自身の歌でこう言っています。「もうネットワークじゃない十字架」と。全世界のキリスト教会で掲げている十字架は、ただの飾りでも、アクセサリーでもありません。十字架は、私たちの罪を赦すしるしであり、希望です。あなたが今、このことを信じ受け入れるならば、神様はあなたの罪を赦し、救いを与えてくださいます。「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」(ローマの信徒への手紙10章10節)

私たちが「友」と呼んでくださるイエス様には、人には言いづらいと思うことも何でも話せます。イエス様はあなたを大切に思い、聖書を通して、あなたに言っておられます。「どんなことがあっても、私はあなたと共にいる。」

(救世軍士官(伝道者))

ここにいます。私を遣わしてください

—— 神の優しい恵みに導かれた歩み



フローレンス・シーンさん

(救世軍士官)

救世軍では毎年春に、海外での働きを支援するための募金「克己週間」をおこなっており、世界のニーズに目を向ける機会となっています。フローレンス・シーンさんはミャンマー出身の救世軍士官で、昨年末まで英国ロンドンの救世軍の国際本部で奉仕していました。その信仰の歩みと奉仕を通しての証言を寄せていただきました。

私の両親はミャンマーの救世軍の児童養護施設で育ち、そこでイエス・キリストに出会い、神の召しに呼ばれて救世軍士官(伝道者)となりました。私は子どもながらに、両親が揺るぎない思いやりをもって人々を愛する姿を見て育ちました。両親は確信をもって説教する一方で、皿を洗い、涙をぬぐい、見知らぬ人を迎え入れていました。その姿を通して、私は神の愛が力強く、同時に優しいものであることを学びました。

人生を形づくった聖句

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」(エレミヤ書29章11節)

この聖句は、人生で理解できない状況に直面しても、私たちに對する神のご意志は変わらずに善である、という約束です。私は十四歳の時に、想像もしなかった形で試練を受けました。父が三十九歳という若さで亡くなり、母は寡婦として三

人の子どもを育てながら救世軍での働きを続けました。十九歳になった時、私は家族を支えるためにシンガポール(家事労働者として働きに出ました。依然として不安と葛藤の中にありましたが、私が仕えた家庭の親切と、シンガポールの救世軍の小隊(教会に相当)での交わりを通して、大きな助けを受けました。そして、ある日曜日、説教で語られた次の聖句が心に残りました。

「そのとき、わたしは主の御声を聞いた。『誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。』わたしは言った。『わたしはここにいます。わたしを遣わしてください。』」(イザヤ書6章8節)

その問いかけは、まるで耳元で語られているように感じられました。疑いよりも先に答えが心から湧き上がりました。「私を遣わしてください。」それから神は、想像を超える形で道を開いてくださいました。五年後に私はニュージールランドで士官候補生(神学生)として訓練を受けることになりました。二年間の訓練を経て、救世軍士官に任官され、ミャンマーに戻り、自分が出

身した小隊の小隊長(牧師に相当として奉仕の人生をスタートしました。

多くの場所で、多くの役割を担って

それからの二十五年、神は私をさまざまな働きへと導いてくださいました。小隊、青少年部、士官志願者部、社会福祉部、児童養護施設、地域開発、学生ホステル、人身取引対策室、本部(本部、万国本営(国際本部)の働きです。ときに責任が大き過ぎると感じることもありました。いつも、自分の力が尽きたところで神の力が始まることを経験させられました。

特に、社会福祉部で奉仕する中で、人間の苦しみに直接に向き合わせられました。世代を超えて続く貧困の呪縛、日常の中に隠された搾取、当たり前のような感覚になっっている疲弊——。これらの経験は、私を絶望へと導いたのではありませんでした。むしろ、すべての人が「神のかたち」として聖なる尊厳をもっているという確信を、さらに深めることになりました。この経験を通して、世界は過酷であるが、神は常に優しい、

という二つの真実を見させられました。

学びの時——道が途切れるとき

「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」(ローマの信徒への手紙12章12節)

私は人生で最も困難な時期を「学びの時」と呼んでいます。独身士官として五年間奉仕した後、私は同じ士官である伴侶と結婚しました。私たちは、仏教徒が多い地方での開拓伝道に任命されました。神はその働きを豊かに祝福してください、新しい小隊が開かれ、学生ホステルと児童学習支援を始めることができました。私は、幸せな結婚と実り豊かな奉仕という、幼い頃からの夢がかなえられたと思いました。しかし、その夢は打ち砕かれました。夫の裏切りによって私たちは離婚することになったのです。離婚が恥と見なされる文化の中で、私はどのように歩めばよいのか悩みました。最大の恐れは、救世軍士官としての役割を失うことでした。それは単なる職業ではなく、私の召しであり、神との契約だからです。神は

創立者 ウィリアム・ブース 大將 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈日本〉 Giving Bag と救世軍バザーの提携

旅先で不要になった衣類や日用品を、廃棄せず寄付へとつなぐ取り組みが始まっています。アパートメントホテルを展開する Section L では、都内6施設に「Giving Bag」を導入し、宿泊者が滞在中に使わなくなった物品を気軽に寄付できる仕組みを整えました。

回収された物品は、救世軍のバザー活動へ寄贈されます。救世軍のバザーは、「人と物の再生」を大切に、寄せられた品を必要とする方々への支援につなげてきました。旅先で役目を終えた物が、別の場所で誰かの生活を支える——その静かな循環は、私たちの働きの根幹とも重なります。

近年、環境への配慮や地域貢献を重視する動きが広がる中で、「まだ使える物を捨てたくない」という思いをもつ旅行者も増えています。Giving Bag は、その思いを具体的な行動へと導く一つの方法です。

救世軍は、こうした連携を通して、



東京・麻布の ReShare Store (救世軍の常設バザー会場のひとつ)

人と人、人と社会を結び直す働きを続けていきます。一つの袋に託された思いが、支え合いの輪を広げていくことを願っています。

〈国際本部〉国連総会発足 80 周年記念の集会に参加

1月17日、国連総会の第一回開催(1946年1月10日)から80年を記念した感謝礼拝が、ロンドンのメソジスト・セントラル・ホールで開催されました。キリスト教一致祈祷週間(1

月18~25日)の開始前日にもあたり、キリスト教会の諸教派、教団の代表が集いました。国連のグテーレス事務総長、国連総会議長ベアボック氏、政府関係者、市民リーダー、一般の人々も多く出席し、救世軍からは、バッキンガム大将夫妻と教会一致運動担当者が出席しました。

前ウェストミンスター大司教ニコルズ枢機卿が説教をし、80年前に平和への希望をもって世界的な枠組みがつけられたことを振り返るとともに、現代社会においても、キリストの福音が個人の心に平和をもたらし、互いを尊重するために必要であると述べました。礼拝の後、午後は講演とパネルディスカッションのセッションがあり、国連の現代的意義や、次世代への働きの継承について議論されました。

この記念の一日は、第一回国連総会から生まれた平和、希望、団結の精神を各参加者が再確認する時となりました。救世軍は、神を愛し他者に奉仕する使命と、救世軍国際社会正義委員会と国連との協力関係を通じて、それらの精神の実現にこれからも力を尽くしていきます。



礼拝に集った人々



救世軍とは? What is the Salvation Army?

救世軍(The Salvation Army)は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に、食事や清潔な住環境の提供など、具体的な助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まりました。

救世軍では毎年春(3月、4月)に「克己週間」をおこないます。これは、イエス・キリストの十字架の死に心を向ける受難節の季節におこなわれる募金活動で、海外の救世軍の活動を支えるために用いられます。世界各地で、さまざまなニーズを抱える人々へ、必要な支援を届けるため、今年も皆様のご協力をいただきましたら幸いです。



☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)

左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を読めます! 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください!



救世軍公報 ときのごえ
発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日
定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブ・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 有限会社コーチ印刷



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのごえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。